

評価結果概要表

【評価実施概要】 作成日 平成20年12月21日

事業所番号	2773302035	評価機関名	特定非営利活動法人
法人名	(株)大阪ヘルスバンク		近畿マネジメント・サポート・センター
事業所名	グループホーム AMG	所在地	大阪市東住吉区山坂5丁目5番14-103号
所在地	大阪市西成区千本北1丁目20番11 電話06-6656-5862	評価調査日	平成 20 年 12 月 19 日
		評価確定日	平成 20 年 12 月 23 日

【情報提供票より】 (平成20年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数	9人
職員数	8 常勤 4人 非常勤 4人	常勤換算	6, 9人

(2) 建物概要

建物の構造	鉄骨造り 3階建ての(2階部分)
-------	---------------------

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	42,000円	その他の経費・月額	30,000円	
敷金	無 (円)			
保証金の有無 (入居一時金を含む)	有 250,000円 償却 有1年 以降返却なし			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

利用者人数	9名	男性	7名	女性	2名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢 平均	70才	最低	62才	最高	91才

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤田記念病院 井戸西歯科
---------	--------------

【外部評価で確認された、この事業所の特徴】

共用室は柱のない広いホールで、利用者が気軽に話し合える雰囲気があり、職員は8名中、5名が5年以上の経験者で、利用者は気付づきの介護を受けながら、毎日を明るく楽しく過ごしている。事業所のすぐ横の道路を隔てて小学校があり、日中は小学生たちの明るい元気な声が聞こえて来て楽しい。又、事業所はビルの2階で、1階にはクリニックと薬局があり、医療面では恵まれた環境にある

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題と、その後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	開設後、今回が初めての外部評価です
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	管理者と経験豊かな職員が、話し合いを重ねて自己評価と改善案の検討を実施した。日常の介護の問題点等は、契約病院の医師、又はホームと同じビル1階のクリニックの看護師、薬剤師の方々の助言をいただいている。利用者の個人情報については、センター方式を利用して、職員のチームワークにより把握され、介護計画に反映している
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容、及び、それらを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	本年度は1回の開催であるが、運営推進会議による情報交流の検討は、介護向上に繋がっているため、管理者は開催に向けて努力しようとしている
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	利用者は1名を除き、多くの事情からご家族との交流が殆ど出来ていない状況にあり、今回のご家族アンケートでも、回答を得ることができなかった。利用者には職員が馴染みの関係を深めるよう努力しており、ご苦情、希望等については把握に努力し、あれば改善を図っている。ホームはビルの2階で、出入りが階段だけとなっているのが、入居時の制約となっている
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域とは散歩で、近所の方々のご挨拶程度となっている、自治会には加入して行事等の連絡を頂いており、老人会とは交流している

（ 部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営					
1 理念と共有					
	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中で、その人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者一人ひとりに合わせた介護で、安心とゆとりの生活を楽しくして頂けることを理念として掲げている		
	2	○ 理念の共有と、日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例の会議等で運営者は、職員に理念の実践への意識を持つよう強調している	○	理念をご家族、来訪者、或いは職員一同に伝えるために、目に付く場所への掲示をして欲しい
2 地域との支えあい					
	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等の地域活動に参加し、地域の人々と交流することに努めている	運営者は事業所名のAMGで地域密着を掲げており、人々との交流を目指している		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回がホームとしての初回の自己評価を職員一同で実施した。ミーティングで現状把握と改善案の検討を行った	○	事業所内の、軽微な設備関係の要改善箇所については、工夫して、実行して欲しい。
	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている	昨年度も1回開催、今年度も1回開催に留まっている。会議によって情報交流と、介護向上の意義を理解しているので、管理者は開催回数を増やしたいと願っている	○	定期的な開催へ、内部体制を検討して進めて欲しい
	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のご担当者と職員とは、適宜に話し合う機会を持っている		
4 理念を実践するための体制					
	14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び、個々にあわせた報告をしている	来訪されたご家族とは管理者が応対している。ホームとしては殆どの利用者が、ご家族との関係が複雑な方々が多いよう見ている		
	15	○ 運営に関する家族等の意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見、ご不満は聞いていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	9 18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職者は年1名程度で、後は勤続者が多いので、利用者への動揺は最小限で収まっている。又職員は利用者との馴染みの関係を作るよう日常の介護に配慮している		

5 人材の育成と支援

	10 19	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	協力依頼を行っている病院の研修会への参加も含めて、外部研修会には参加している		
	11 20	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて質を向上させていく取り組みをしている	全国組織のグループホーム協会に加入しており、西成区内の事業者との情報も交換し、改善に役立っている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1 相談から利用に至るまでの関係づくりと、その対応

	12 26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して納得した上で、サービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ法人のデイサービス送迎車を利用して見学に来てもらい、慣れていただくようにしている		
--	-------	--	--	--	--

2 新たな関係づくりと、これまでの関係継続への支援

	13 27	○ 本人と共に過ごし、支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、調理・清掃の手伝いを利用者と一緒にしながら、一人ひとりと、早く馴染みの関係になるように努めている		
--	-------	--	--	--	--

III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

	14 33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の申し送りの際には、必ず一人ひとりの思い、希望、意向等を伝達している		
--	-------	---	--------------------------------------	--	--

2 本人がより良く暮らしを続けるための介護計画の作成と、見直し

	15 36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録は当初より東京センター方式を取り入れて、介護計画変更の基本として来ている	○	記録のとり方について、改善出来ないかを、職員同士で検討して欲しい
--	-------	--	--	---	----------------------------------

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	月一回の見直し、症状の変化があった場合は、カンファレンスを行い、関係者等の意見も反映した介護計画を作成している		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や、家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の多機能を活かして利用者、ご家族への支援を、適宜に実施している		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られた、かかりつけ医と、事業所の関係を築きながら、適切な治療を受けられるように支援している	内科医の週1回、歯科医師の2週に1回の往診を受けている		
19	47	○ 重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や、終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびに、かかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りは行っていないので、医療機関との連携で対処している		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシー確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個人の尊厳とプライバシー保護のため、職員同士の連絡はスタッフルームとし、記録類の取扱いには注意している		
21	52	○ 日々の、その人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりでなく、利用者優先の介護を目指している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューとし、食器も相応しいものの配慮をしている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○ 印	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		入浴は週2～3回、利用者に合わせるように努力している

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

	24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている		一人ひとりの生活歴に合わせて声をかけている。日常の中で発見した得意なことも取り入れている
	25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの、その日の希望にそって戸外に出かけられるよう支援している		主として近隣のスーパー等への買物となっているが、希望者以外にも定期的な声かけをしている

(4) 安心と安全を支える支援

	26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中、玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○	鍵掛けについては、職員間での長期の検討課題として進めて欲しい
	27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○	消防署員による避難訓練と、緊急避難マニュアルの用意。また、近所の緊急避難時の応援については、課題として検討して欲しい

	28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		個人ごとに水分、食事摂取量の記録の仕方、その他の記録類は出来ている
--	----	----	--	--	-----------------------------------

2 その人らしい暮らしを支える生活習慣づくり

(1) 居心地のよい環境づくり

	29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		掃除は職員と一緒にしている。又室内の飾りは、季節感を出すように演出している
	30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		個室については、夫々に衣類箱、家具類、仏壇も置かれ、居心地よく毎日を過ごしている